



大学教育再生加速プログラム採択事業  
キックオフシンポジウム  
～ 国際バカロレア教育と大学教育の接続 ～

◆日 時 平成26年10月30日(木) 13:30～17:00

◆場 所 岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

13:00～ 受 付

13:30～ 開会の挨拶 岡山大学長 森田 潔

13:45～ 来賓の挨拶 文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐 八島 崇

14:00～ 講 演

■入試改革について 岡山大学理事・副学長(教育担当) 許 南浩

■海外IB校が日本の大学に期待すること

International School of Paris

国際バカロレア日本語学科教師・同試験官 石村 清則

■世界で生きるチカラー国際バカロレアが子どもたちを強くするー

国際バカロレア機構アジア太平洋地区理事 坪谷ニューエル郁子

15:00～ 休 憩

15:30～ パネルディスカッション

コーディネーター

岡山大学副学長(入試改革・グローバル人材育成担当) 栗原 考次

パネリスト

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐 八島 崇

筑波大学アドミッションセンターセンター長 島田 康行

立命館宇治中学校・高等学校教頭(国際教育担当) 東谷 保裕

加藤学園暁秀高等学校中学校バイリンガルコースディレクター ウェンドフェルト延子

岡山大学アドミッションセンター副センター長 田中 克己

17:00 閉 会

17:30～ 意見交換会(会場:Jテラス/会費制90分)

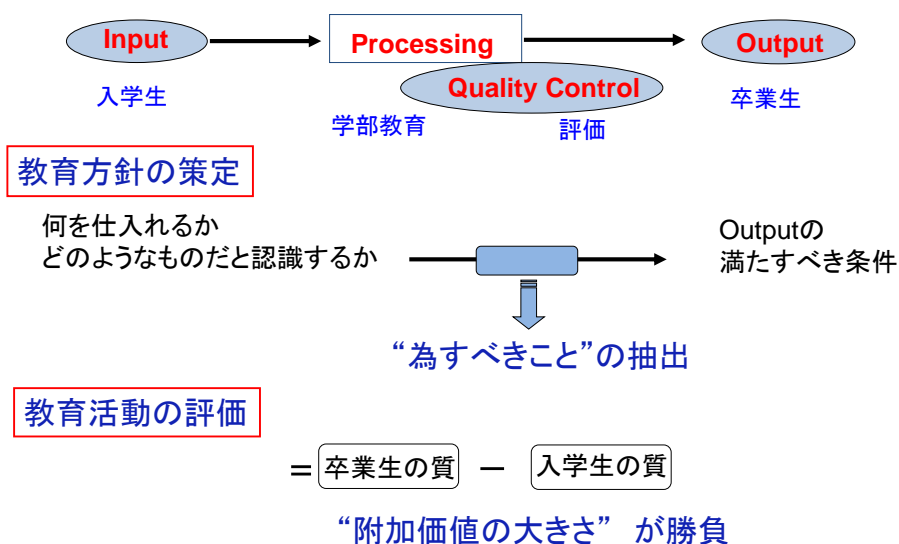
岡山大学AP・キックオフシンポジウム  
「国際バカロレア教育と大学教育の接続」

## 岡山大学の入試改革について

岡山大学 理事・副学長 (教育担当)

許 南浩

### ◆ 教育機関としての教育



◆ ディプロマ・ポリシー 社会に対する約束 

岡山大学のディプロマ・ポリシー

- ・人間性に富む豊かな教養【教養】
- ・目的につながる専門性【専門性】
- ・効果的に活用できる情報力【情報力】
- ・時代と社会をリードする行動力【行動力】
- ・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

例) 自動車製造会社

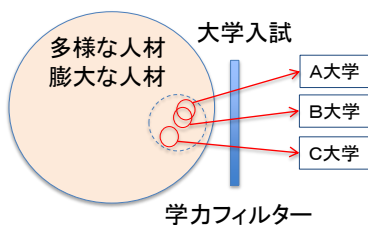
- ・スピードが出ます
- ・燃費がいいです
- ・事故時でも安全です
- ・長持ちします

- ・最高時速は220 km/h です
- ・燃費は 23 km/L です
- ・新型エアバッグを備えています
- ・20万キロまでの走行を保証します



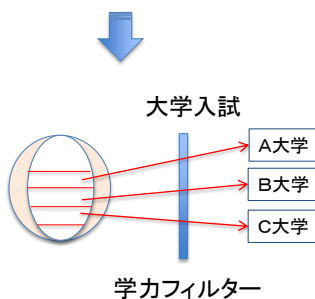
入学者の質「DPの素養」
+
付加価値の増大「学びの強化」
=
卒業生の質が「要」

◆ 大学入試の考え方

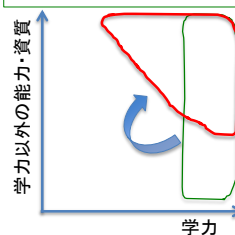


**確かな学力** 知識・技能  
 思考力・判断力・表現力  
 主体性・多様性・協働性

**生きる力** 豊かな人間性  
 健康・体力  
 社会・国の形成者としての  
 教養・行動規範

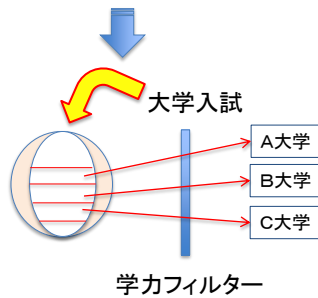
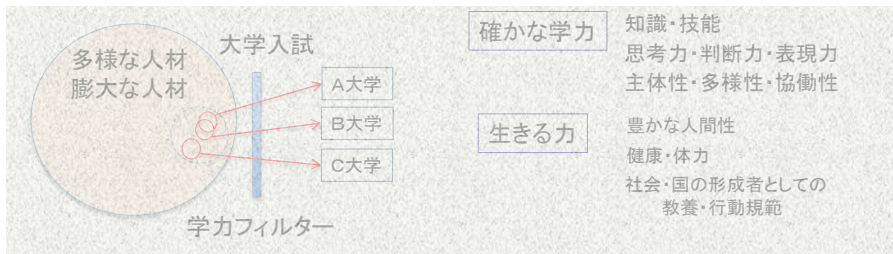


学力偏重から多面的評価へ



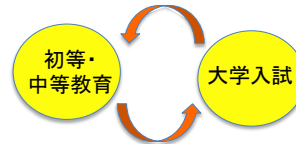
- ・能力・資質: 測れるものと、測れないもの
- ・学力とその他の能力・資質の関係

## ◆ 大学入試の考え方



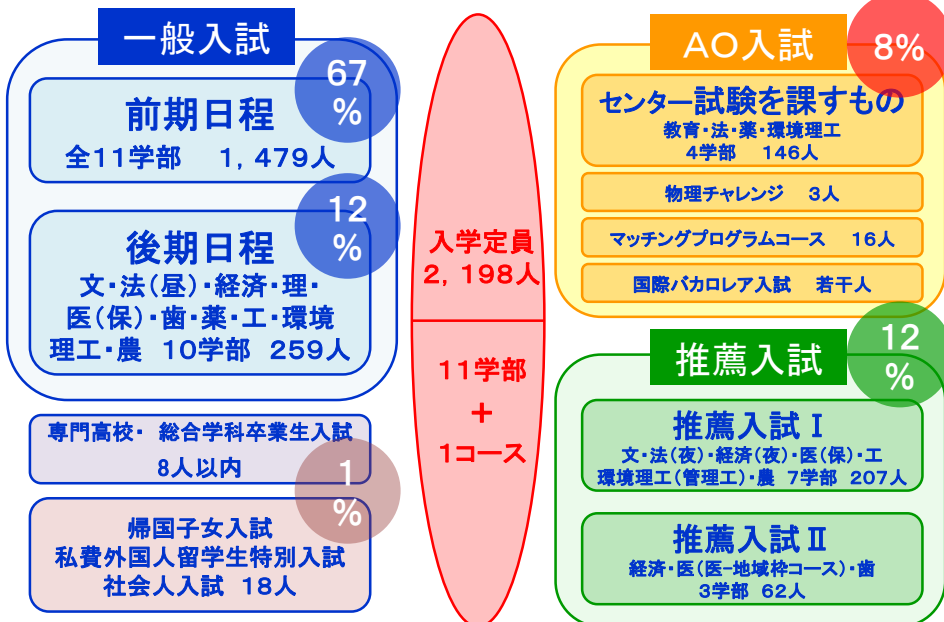
・大学入試と初等・中等教育は  
ニワトリとタマゴ

(進行中の高大接続改革)



(一例: 国際バカロレア)

## ◆ 入試方法別 入学者



## ◆ 岡山大学の入試改革



「アドミッションポリシー」  
「多様な入試制度により国内外から広く受け入れ」

～これまで～  
基礎学力: 知識、思考力、理解力  
要素Ⅰ: 語学力、コミュニケーション能力

(要素Ⅰ～Ⅲ: グローバル人材育成推進会議)

～これから～  
基礎学力、要素Ⅰに加えて

要素Ⅱ:  
主体性、積極性、チャレンジ精神、  
協調性、柔軟性、責任感、使命感

要素Ⅲ:  
異文化に対する理解と日本人としての  
アイデンティティー

	基礎学力			要素Ⅰ		要素Ⅱ	要素Ⅲ
	知識	思考力	理解力	語学力	コミュニケー ション力	主体性 積極性 協調性 柔軟性 責任感 使命感	異文化 理解力
センター 個別学力	◎	○	○	○			
面接	○	○	○	○	◎	◎	
プレゼン	○	○	○		○	○	
集団面接	△	△	○		○	○	○
小論文	○	○	○				○
志望理由書						○	○
活動報告書					○	○	◎
学習計画書						○	○

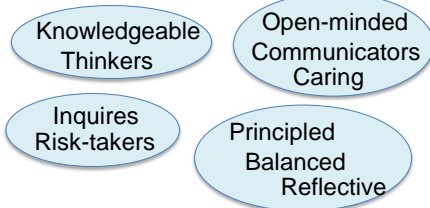
## ◆ 国際バカロレアとは



▶ 1968年 国際バカロレア機構発足  
認証、共通試験による  
教育の国際的な質保証

育成する人材像

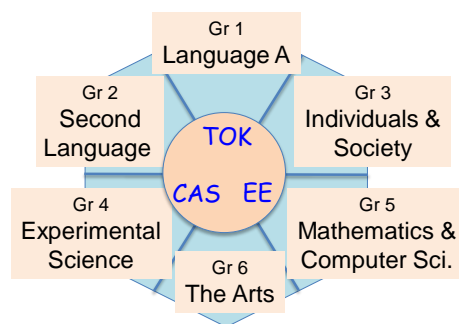
全人 (holistic) 教育



IB DP得点と進学先の例(イメージ)

- ・MIT 40
- ・Harvard 39
- ・Tokyo 37

IB Diploma Program



TOK: Theory of Knowledge

EE: Extended Essay

CAS: Creativity, Action, Service

- ・6科目群 各7点満点
- ・TOK / EE 3点満点
- ・CASは必修
- ・45点満点中 24点以上必要

## ◆ 国際バカロレア入試導入の経緯と実績



- ▶ 平成21年 オーストラリア等のIB校を訪問調査
- ▶ 平成22年7月 学内でIB校教育説明会を開催
- 11月 欧州のIB校を訪問調査
- 12月 IB入試(H24)導入を記者発表
- ▶ 平成23年1月 東南アジアのIB校を訪問調査
- 8月 第1回IB入試を実施(理、工、農、医保、MP)
- ▶ 平成24年 第2回IB入試を実施
- 欧州のIB校で説明会実施
- ▶ 平成25年 秋入学IB入試を実施
- 環境理工も春入学IB入試を導入

### IB入試実績

年度	2012 (春)	2013 (春)	2013 (秋)	2014 (春)	2014 (秋)	2015 (春)	計
志願者数	1	1	3	2	6	9	22
合格者数	1	1	2	1	3	6	14
入学者数	1	0	1	0	3	?	5

## ◆ 岡山大学の国際バカロレア入試(2015)



2015年度(4月入学)入試より  
全11学部+1コースで実施

### ● 書類審査のみ

文学部、法学部、経済学部、理学部、薬学部、工学部、  
環境理工学部、農学部、MPコース

### ● 書類審査 + 面接

教育学部、医学部(医学科、保健学科)、歯学部

※書類: 「成績評価証明書」, 「自己推薦書」, 「評価書」

※付帯条件: 言語Aを日本語で4以上  
募集単位毎の指定科目あり

※定員: 医学部医学科 3名、他は若干名

## ◆ 国際バカロレア入試の意義と課題



### IB教育、入試の意義

- ▶ IB教育の理念は、現在大学に求められている人材育成像と合致
- ▶ 高校あるいはそれ以前からのグローバル人材育成
- ▶ 教育内容・方法、輩出人材の国際共通的質保証

### IB教育、入試の課題

- ▶ IB Diplomaを有する人材の量的確保  
現在、海外のIB校で日本語を母語として選択している学生は～500人／年程度
- ▶ 国内IB校の拡充が必須
  - ・日本再興戦略：2018年までにIB校 200校 日本語DPの開発・導入
  - ・濃密な教育に伴う高額のコストをどう担保するか
  - ・IB教育に必要な教員の確保、質の低下の防止

## ◆ 岡山大学の今後の方針



### 入試改革の課題

知識重視、暗記中心の知識偏重型から、思考のプロセスや発想を重視した課題解決型の入試が必要。

(教育再生実行会議、第四次提言(H25.10))

岡山大学ディプロマポリシー(5つの学士力)を養成するにふさわしい資質と基礎学力をもった人材の受け入れが必要。

- ※5つの学士力とは
- ①豊かな教養、②専門性、③情報力、④行動力、⑤生涯にわたる自己実現力



### 多面的・総合的入試

国際バカロレア入試による受け入れ拡大

平成30年度までに全入学定員数の5%をIB入試採用とすることを旨とする。

### 国際バカロレア入試の調査研究

#### 調査の趣旨:

1. 国内外のIB校を調査し、国内におけるIB校学生の成績分布等と各種試験との関係を検証すると共に、海外におけるIB校学生の地域別、学習内容別の特徴を検証する。
2. 日本語を修得しない(言語Aが日本語でない)外国人IB生の取得科目及び成績を調査し、受入に当たっての留意点を検証する。

#### 訪問予定校:

海外インターナショナルスクール  
欧州、アジア、ニュージーランド、北米  
国内インターナショナルスクール13校、一乗校6校

#### 調査・研究内容:

- ① 6つの科目の講義内容、教育方法等について調査し、地域別、学習内容別の特徴について検証
- ② 課題論文、知識の理論、創造性・活動・奉仕の具体的取り組みの調査
- ③ 英語のみで受講できるグローバルマッピングコースでの受入に当たっての留意点について検証
- ④ IB certificateの学生の実態を調査し、大学入試への対応について検討

これらの調査・研究を基に、国際バカロレア入試についての講演会・勉強会等を高等学校関係者と企画し、国内の国際バカロレア入試の拡大を図る。

### IB学生の受入効果の実験検証

- IB入試により受け入れた学生の一般学生への影響についての検証
- ・グローバル人材育成特別コースでの実績の検証
  - ・本入試における学生の追跡調査(成績、進路等)
  - ・当該学生、および周辺学生へのインタビュー調査

## ◆ 岡山大学の目指すもの



大学入学者選抜を、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換する  
 高等学校教育の連携を強力に進める



今後の調査・研究の成果により、全国のIB入試の先導的役割を目指す





## IB入試(10月入学)

### 出願資格(2015年入試)

- 2013年11月～2015年5月のIB試験で**IB資格証書**取得  
または取得見込み  
(2015年9月末までに18歳に達する者)
- ア) **Japanese A** を履修し、成績評価**4以上**  
イ) 次の指定科目を上級レベル(Higher Level)で履修し、  
成績評価**4以上**

学部・学科	募集人員	指定科目
-------	------	------

MPコース	若干人	グループ6(芸術)以外から1科目 (HL成績評価4以上)
-------	-----	---------------------------------

### 選抜方法(2015年入試)

書類審査

スケジュール(2015年入試)

2014年11月	学生募集要項発表
2015年 1月20日～22日	出願期間
3月20日	条件付合格発表
8月28日	IB資格証書提出期限
8月28日	入学手続期限
10月 1日	入学

IB入試(2015年4月入学) **今年の例**選抜方法

**Japanese A** を履修し、成績評価**4以上**

文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部、薬学部  
環境理工学部、マッチングプログラムコース → **書類審査**

教育学部、医学部、歯学部 → **書類審査、面接**

スケジュール

2014年 8月 1日～5日	出願期間
8月18日	面接(歯学部)
8月19日	面接(教育学部、医学部)
8月29日	条件付合格者発表
2015年2月18日	入学手続

## 学部学科専攻等の指定科目 その1

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
理学部	数学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)
	物理学科		数学、物理から1科目(HL成績評価4以上)
	化学科		数学、物理、化学から1科目(HL成績評価4以上)
	生物学科		数学、物理、化学、生物から1科目(HL成績評価4以上)
	地球科学科		物理、化学から1科目(HL成績評価4以上)
医学部	保健学科	若干人	看護学
			放射線技術科学
			臨床技術科学
			物理、化学、生物から1科目(HLないしSLを履修、成績評価は問わない)
工学部	機械システム系学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)及び物理(HL成績評価4以上またはSL成績評価4以上)
	電気通信系学科		数学(HL成績評価4以上)
	情報系学科		数学(HL成績評価4以上)
	化学生命系学科		化学(HL成績評価4以上)及び数学(HL成績評価4以上またはSL成績評価4以上)

## 学部学科専攻等の指定科目 その2

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
環境理工学部	環境数理学科	若干人	数学(HL成績評価4以上)
	環境デザイン工学科		数学及び物理、化学、生物から1科目(どちらか1科目はHL成績評価4以上。もう一方はSL成績評価5以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境管理工学科		数学及び物理、化学、生物から1科目(どちらか1科目はHL成績評価4以上。もう一方はSL成績評価4以上又はHL(成績評価は問わない))
	環境物質工学科		数学(SL成績評価4以上又はHL(成績評価は問わない))及び物理か化学のどちらかHL成績評価4以上
農学部	総合農業科学科	若干人	物理、化学、生物から2科目(HL又はSLで履修。成績評価は問わない)
マッチングプログラムコース		若干人	グループ6(芸術)以外から1科目(HL成績評価4以上)

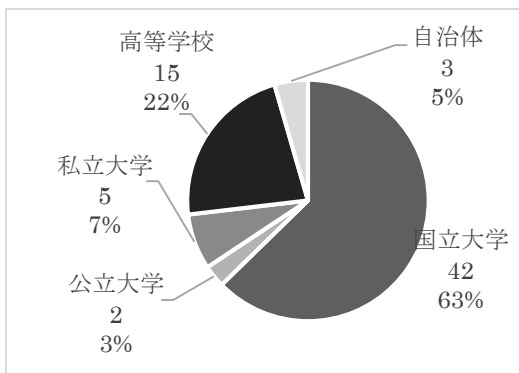
## 学部学科専攻等の指定科目 その3

学部・学科・専攻等		募集人員	指定する科目
文学部	人文学科	若干人	日本語A(HL4以上)
教育学部	学校教育教員養成課程	若干人	1科目HL4以上
	養護教諭養成課程	若干人	グループ6以外から1科目HL4以上
法学部	法学科(昼間コース)	若干人	英語HL4以上 グループ3から1科目HLないしSL4以上
経済学部	経済学科(昼間コース)	若干人	グループ3から1科目HL4以上または数学HL4以上
医学部	医学科	3人	生物、物理、化学から2科目および数学(うち1科目はHL4以上、他の2科目はSL5以上かHL3以上)合計39点以上(45点満点)
薬学部	創薬科学科	若干人	物理、生物(どちらかをHL4以上) 化学(HL4以上) 数学(SL5以上か又はHLで履修)
	薬学科		

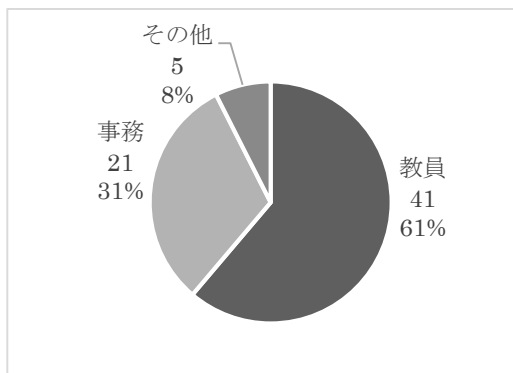
## 大学教育再生加速プログラム採択事業キックオフシンポジウム アンケート集計結果

日 時 平成26年10月30日(木) 13時30分～17時  
 場 所 岡山大学五十周年記念館  
 参加者数 107名(学外53名 学内54名)  
 アンケート集計枚数 67枚

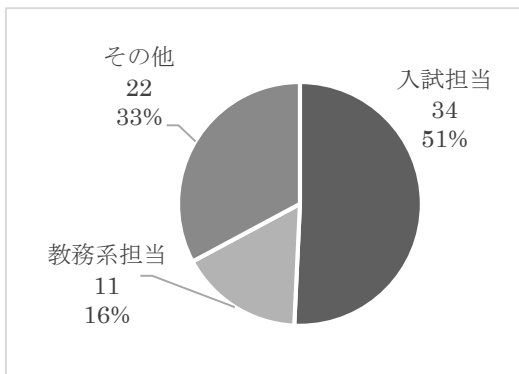
### 問1 所属をご回答ください



### 問2 職種をご回答ください

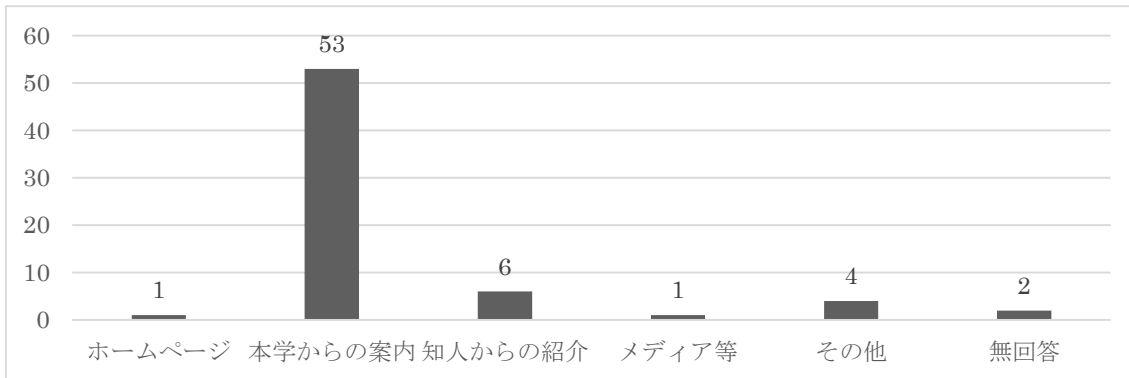


### 問3 役職(ご担当のお仕事)をご回答ください。



\*入試担当は入試関係委員等を含む。  
 \*教務系担当は教務関係委員等を含む。

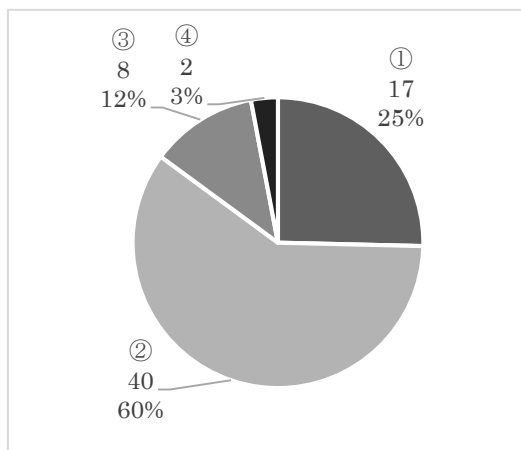
### 問4 本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問5 本日のシンポジウムはいかがだったでしょうか。それぞれについてご回答ください。

■入試改革について

岡山大学理事・副学長(教育担当) 許 南浩

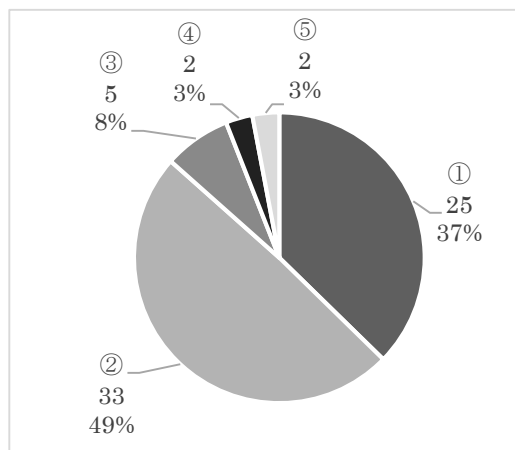


①非常に参考になった ②参考になった  
③どちらでもない ④無回答

■海外 IB 校が日本の大学に期待すること

International School of Paris

国際バカロレア日本語学科教師・同試験官 石村 清則



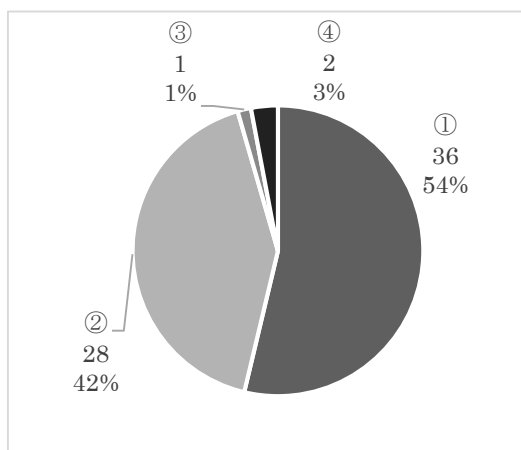
①非常に参考になった ②参考になった  
③どちらでもない ④あまり参考にならなかった  
⑤無回答

■世界で生きるチカラ

—国際バカロレアが子供たちを強くする—

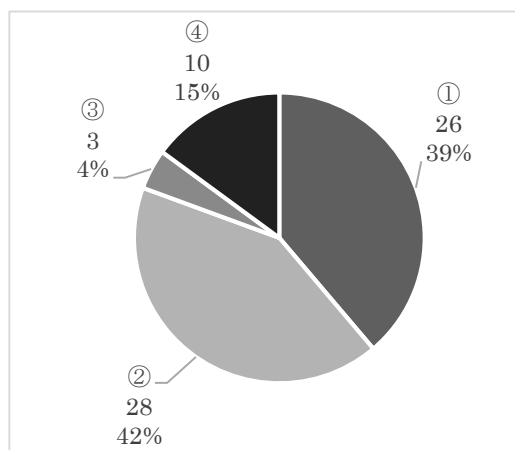
国際バカロレア機構

アジア太平洋地区理事 坪谷ニューエル郁子



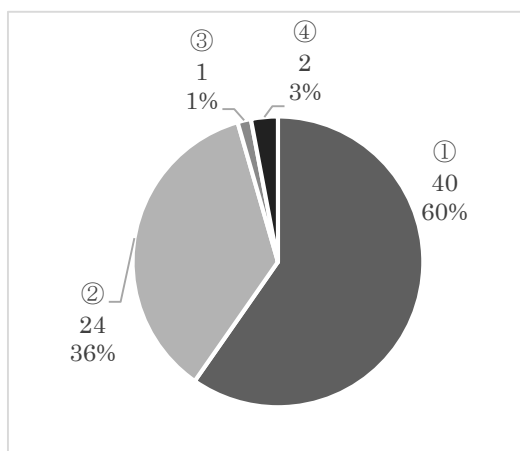
①非常に参考になった ②参考になった  
③あまり参考にならなかった ④無回答

■パネルディスカッション



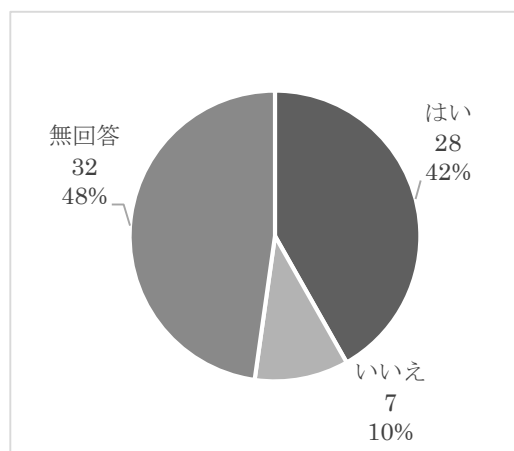
①非常に参考になった ②参考になった  
③どちらでもない ④無回答

問6 全体の運営はいかがだったでしょうか。



①良かった ②普通 ③あまり良くなかった ④無回答

問7 大学関係者の方に伺います。貴学へのIB入試を検討していますか。



問8 高等学校関係者の方に伺います。岡山大学のIB入試、入試改革についてご意見があればご記入ください。

- ・ 大学入学者選抜におけるIBの活用は理解しますが、入学後の一般選抜との関係性や入学後の授業等を含めた改革など、学内での改革がよく見えてこないのが気になります。
- ・ 先駆的な入試に期待しています。しかし、どのような学生を求めるよう変化していくのか不安でもあります。
- ・ IB入試の医学部の募集要件で、現在、出願時にすでにIBディプロマを取得していることとなっておりますが、今後は取得見込の生徒でも出願できるようになりますか？
- ・ 今の所、全然考えていない。
- ・ 改革の方向性については時代の流れに沿っていると考えている。IB入試を含め県教委や校長会も啓蒙してもらいたい。公立は上層部が理解し、意識改革しないと、なかなか動きませんので。
- ・ この入試で入学した生徒が学部でどんな存在の学生になるのか興味あります。
- ・ 今後大学入試が激変する状況の中、逐一最新の情報をしっかりと流して欲しい。高校現場はそれだけが頼りで、高校も変わろうとしています。
- ・ 全学部へIB入試を採用している点が画期的だと感じました。石村先生のお話にも有りましたように(全学部へ)面接を厳しく実施するのも良いアイデアだと思います。
- ・ 高校に対して今後きめ細かな情報提供を(インターネットも含めて)お願いしたいと思います。
- ・ 情報へのアクセスをまとめることで、容易になる事を望みます。

問9 今後、岡山大学の入試制度に関して期待すること等その他ご意見があればご記入ください。

- こうした広報を兼ねた催しを積極的に行ってもらいたい。
- 様々な入試制度を行うことによって、様々な力を持った生徒が募集できると思います。
- 多様な人材を多様な入試で、という考え方に納得感はあるのですが、その受入体制(→大学側の教育をどう変えるのか?“大学教育の付加価値”の具体化)はどうするのかを今後、打出して欲しいと思います。(例えば、バカロレア教育から見た“大学教育のあるべき姿”)
- 今後もぜひ色々御教授いただきたいです。ありがとうございました。
- 今回は、時機をえたシンポジウムを開催いただきありがとうございました。大変、参考になりました。
- 本日は勉強になるシンポジウムを開いて下さりありがとうございました。高大接続の現在の課題や、新しい国際バカロレア DP について知識を深めることが出来ました。文科省の方からの旬な達成度テストについて学べたので良かったです。
- どう多面的評価をするか難しいことではあると思います。資質・能力を見極める、測ることも大切だと感じました。
- IB 卒生が大学卒業後、社会で価値を認められる様に大学教育に期待しています。